

令和7年6月 牧之原市議会定例会 行政報告

令和7年市議会6月定例会の開会にあたり、各施策の取組状況につきまして報告いたします。

今年の一番茶は、2月から4月の気温の変化により、例年より2日から3日ほど遅く、4月28日頃からの本格的な摘採開始となりました。

荒茶につきましては、本格摘採後の気温の低下や降雨の影響により、茶葉の生育が遅れたことで減産となりました。減産や碾茶などへの生産転換により出回りが減ったことで煎茶の取引価格が維持され、最終的な取引価格は1割から2割高となりましたが、減産の影響で売上げが前年を下回った生産者が多く、引き続き厳しい状況が続いております。

また、契約荒茶につきましては、安定した取引につながってはおりますが、同様に減産に伴い減収となりました。

一方で、抹茶の原料であります碾茶につきましては、需要の高まりにより終始高値で取引されたとのことです。

静岡茶は、生産量では日本一を鹿児島県に奪われましたが、昨年の全国茶品評会深蒸し茶の部において、上位100位までのうち91点を本県が占めるなど、味と品質で言えば正に日本一でありますので、引き続き、「質の高い深蒸し茶の販売促進」「企業との契約栽培による安定需要の確保」「有機栽培での碾茶や抹茶の輸出」の3本柱を基本として、生産者の意向に沿った必要な支援を進めてまいります。

こうした産業振興や地域づくりに向けた人材確保のため、今年度から、地域おこし協力隊における新たな取組として、企業等連携型の隊員募集を進めており、4月1日に、企業等連携型1人を含む3人の隊員に委嘱状を交付いたしました。

引き続き、隊員確保に努めるとともに、受入事業所の更なる増加を通じて、市、事業所、地域、隊員が連携した地域の活性化、地域産業の振興などに取り組んでまいります。

5月31日、6月1日の2日間において開催いたしました「第31回 全国花のまちづくり牧之原大会」につきましては、市制施行20周年記念事業として、友好都市の三戸町、松川町、人吉市をはじめ、全国から467人の皆様にご参加いただき、盛大に開催することができました。

当日は、「花と共に 人と共に 牧之原市」というテーマの下、花の会をはじめ、萩間小学校の関係者、川崎地区及び勝間田地区の絆づくりの皆様が事例発表を行うなど、これまでの活動を全国に発信するとともに、県下2位の生産量を誇るガーベラなど、花卉生産が盛んな花のまちであることをPRすることができました。

今回の大会を契機に、花を活かした彩りあふれるまちづくりに向けた取組を一層推進するとともに、地域資源を活かした交流人口の拡大を図ってまいります。

例年 9 月に実施しておりました総合防災訓練につきましては、県は、猛暑による訓練参加者の健康への影響を考慮し、10 月に実施することとしましたが、10 月は地域行事が多く、また 12 月の地域防災訓練とも近いことから、当市は 6 月 29 日に実施することといたしました。

令和 8 年度以降につきましても、開催時期を含め、多くの方に参加いただけるよう検討してまいります。

次に、3 年目を迎える第 3 次総合計画の進捗状況について報告いたします。

まず、「戦略 1 富士山型ネットワークの充実」についてであります。

東名高速道路相良牧之原インターチェンジ北側地区における開発につきましては、8 月頃の完成を目指して、土地区画整理組合が商業・産業街区の造成、道路や調整池等の工事を進めております。

商業・産業街区内の保留地につきましては、大和ハウス工業株式会社から提示される予定の施設等に関する建築計画に基づいて売買契約を締結し、令和 9 年度のまちびらきに向けて商業、産業施設の建築を促進してまいります。

また、矢崎部品株式会社ものづくりセンターの協力により、同センターと菊川駅間を結ぶ無料バス「矢崎アローライン」が 4 月から運行を開始しております。現在、牧之原市民 31 人、菊川市民 3 人の計 34 人の方が登録し、西部方面に通学する中高生を中心に、毎日 10 人程度の方が利用しております。

官民連携による新しい方式によって、高台エリアから西部方面へのアクセスが創出されましたので、引き続き企業や周辺市町と連携し、富士山型交通ネットワークの充実に努めてまいります。

道の駅「そらっと牧之原」につきましては、建築工事が完了し、7 月 18 日の開駅に向け外構工事を進めているところであります。

現在、指定管理者であります TTC グループが、地元の農家等と協力しながら、お茶やレモンを中心とした地域の特産品を活用した商品開発を進めるなど、開駅に向けた準備を着々と進めております。

地産地消に向けた取組を推進するとともに、目的地として来なくなる賑わいのある施設となるよう、引き続き取り組んでまいります。

今年度は大河ドラマ「べらぼう〜^{つたじゅうえいがのゆめばなし}蔦重栄華乃夢噺〜」の放映もあって、誘客における大きなチャンスを迎えており、史料館に整備した「田沼意次の新時代展」及び「大河ドラマ展」には、これまで 27,000 人を超える方が来場しております。

さらには、ドラマの放映と併せた話題性を確保するために、「牧之原今昔夢噺」のプロジェクションマッピングを実施してきたほか、直近では、5 月 10 日から 11 日にか

けて、松平定信が治めた地であります福島県白河市を表敬訪問し、31日には、蔦屋重三郎の出身地であります東京都台東区での「江戸たいとう 蔦重まつり」に出展して、市内特産物の販売と市のPR活動を実施してまいりました。

また、6月7日には、実現を心待ちにしておりました「田沼意次」役の渡辺謙さんと「田沼意知」役の宮沢氷魚さん両氏による、「田沼親子お国入り！スペシャルトークショー in 牧之原」を、相良総合センターい〜らにて開催いたします。

大河ドラマ「べらぼう」の魅力はもちろんのこと、本市の魅力を知っていただく大変貴重な機会となりますので、お二人を含めた多くの皆様に本市の魅力を感じていただけるよう取り組んでまいります。

大河ドラマを活用した誘客に加え、これから多くの方が当市へ訪れていただく本格的な夏のシーズンを迎えます。

静波サーフスタジアムにおいては、5月24日、25日に、サーフィンのエアリアル技術を競う国際大会「^{ス タ ブ ハ イ} S t a b H i g h ^{ジ ャ パ ン} J a p a n 国際大会」が昨年に引き続き開催され、5月30日、31日、6月1日には「第4回静波パラサーフィンフェスタ」も開催されました。6月8日には、全国の医師や看護師など医療従事者を対象とした「第2回徳洲会カップサーフィン大会」の開催も予定されております。

今後も、静波サーフスタジアムを核とした沿岸部の活性化を図るとともに、サーフィンによる誘客を通じて、パラサーフィンをはじめとしたパラスポーツの振興に加え、医療従事者の確保などにつなげてまいります。

今年度の海水浴場につきましては、静波海水浴場、さがらサンビーチともに7月18日に海開きをし、8月31日までの開設となります。

また、海開きの7月18日から令和8年1月1日までを期間とし、物価高騰に伴う宿泊や飲食などの観光、生活関連サービスへの支援といたしまして、市内の宿泊施設利用者4,000人を対象に、市内での飲食や観光、体験、土産などに使用できる3,000円分の商品券を配布する、「R I D E O N M A K I N O H A R A 誘客キャンペーン」を開催いたします。

花火大会につきましては、相良地区では、さがらサンビーチを会場に水中スターマインをメインに1,173発の花火を打ち上げる、「R I D E O N M A K I N O H A R A いい波に乗ろう！さがら海上花火大会2025」を9月6日に開催し、榛原地区では、10月に開催予定の全日本サーフィン選手権大会に合わせ、来訪者に対するW e l c o m e 花火として計画しております。

様々な事業の相乗効果により効果的に人を呼び込み、賑わいの創出及び市内経済の好循環を図ってまいります。

次に「戦略2 ゼロカーボンと経済成長の好循環の実現」についてであります。

「荒廃農地の解消と収益化」を目指して活動しております「波乗りレモン部会」

の取組につきましては、現在会員数が 62 人となっており、会員所在市町も本市を含め 6 市 1 町へと拡大し、栽培面積も約 12 h a まで拡大しております。

青果や加工品につきましては、イオンリテールや富士スピードウェイホテル、たこまん、市内の菓子店や飲食店に販売等しておりますが、ニーズを満たす生産量を確保するため、目標の 50 h a を目指して栽培面積を拡大してまいります。

また、今年度は、荒廃茶園の茶樹から製造するバイオ炭を農地にすき込み、カーボンのクレジットの付加価値を高めた波乗りレモンの販売に取り組むことで、更なる販路の拡大と農業者の所得の拡大を推進し、ゼロカーボンと経済成長の好循環を図ってまいります。

今年度で 4 回目を迎える「牧之原市チャレンジビジネスコンテスト」につきましては、スケジュールを早め、表彰式を 8 月として進めてまいります。

これまでのコンテストを通して、世界中から合計 373 件のエントリーがあり、第 2 回のファイナリストで、オーガニックまきのはらを推進しているシンコムアグリテック株式会社をはじめ、10 件以上が市内で事業を開始しております。

地域資源を組み合わせたビジネスアイデアにより、魅力ある産業の振興に努めてまいります。

次に「戦略 3 日本一女性にやさしいまちの推進」についてであります。

女性の活躍につきましては、女性が趣味や特技を活かしたスモールビジネスの実施を支援する「月 3 万円ビジネス」が、今年度で 3 年目の取組となります。

引き続き新たな人材を育成するとともに、1 期生、2 期生から運営サポートメンバーを募り、卒業生がこれからの取組に関わる体制を構築するなど、牧之原市独自モデルの創出に向けて取り組んでまいります。

また、企業が集積する強みを活かして市全体で女性が働きやすい職場環境づくりを進めておりましたところ、内閣官房から「若者・女性に選ばれる地方をつくる」取組を進める自治体の募集がありましたので、当市も応募し、令和 7 年 3 月 31 日に全国 68 の自治体に含まれることとなりました。

現在、市内の大手企業 10 社と取組方針等の具体化を進めており、今後、男性の育児休暇の取得、プレコンセプションケアなどの取組を進めてまいります。

結婚、出産等によりライフステージが変わっても働き続けることができる職場及び社会を目指し、市内企業と連携して取り組んでまいります。

結婚の支援につきましては、県と県内 35 市町とで連携して「ふじのくに出会いサポートセンター」を設置し、「出会いの機会・場の提供」「婚活サポート」「結婚支援の底上げ」に取り組んでおります。

センターへの登録者を増やし、結婚を希望する多くの方が安心して婚活に取り組めるよう、登録料を支援する費用を今定例会の補正予算に計上させていただいております。

す。

こどもの居場所支援につきましては、榛原児童館の敷地内に「牧之原市子ども第三の居場所」が完成し、4月3日に開所式を行いました。現在までの登録児童数は7世帯7人で、1日あたり3人から5人の児童が利用し、支援員の下で学習支援や遊び体験などの取組を始めております。

また、市内でこども食堂を実施する団体への補助事業も実施しており、現在4団体からの申請を受け付けております。

今後も引き続き制度の周知に努め、地域におけるこどもの居場所の拡大を支援してまいります。

次に「戦略4 DXの推進」についてであります。

昨年度導入いたしました地域デジタルポイント「まきペイ」につきましては、今年度も8月からデジタルポイント還元事業を実施いたします。

期間中における市内登録店舗での買い物に対しポイントを還元することで、物価高騰の影響を受ける市民の皆様を支援するとともに、購買意欲の高揚を図ってまいります。

また、地域通貨である「まきペイ」の利用促進を図ることで、市内での消費を促進し、市内商店等の売上向上を図るとともに、地域活性化に向けた様々な取組につなげてまいります。

市役所窓口での申請手続を簡略化するスマート窓口サービスの取組につきましては、各種証明書の交付やマイナンバー関連の手続など、現在20種類の手続で活用しており、令和7年1月の開始以降3箇月間で約1万件の利用がありました。

また、コンビニ交付の利用件数につきましても、令和6年度中には14,052件の利用があり、マイナンバーカード交付率の増加に伴い、2年間で2.1倍へと増加しております。

引越し関連の手続につきましても、スマート窓口サービスの対象とすることで、引き続き市民サービスの向上と窓口業務の効率化を図ってまいります。

公共施設予約システムにつきましては、施設によっては鍵の受け渡しも不要になるなど、市内の体育施設や文化施設を、いつでも、どこでも、簡単に予約手続ができ、利用者の利便性の向上と負担の軽減につながる使いやすいシステムの導入を目指してまいります。

今月以降に公募型プロポーザルにより業者を決定し、年内の導入を目指して準備を進めてまいります。

次に「戦略5 次代を切り拓く力を育む新たな学校づくり」についてであります。義務教育学校の整備につきましては、相良地域は、市道となる学校進入路部分も含

めた用地の取得や埋蔵文化財の発掘調査を、榛原地域は、学校用地拡張部分の用地取得や、仁田体育館の解体及びアーチェリー場の移設を行うとともに、学校施設の設計を進めてまいります。

設計の過程においては、小中学生を対象にしたワークショップや教職員へのヒアリング、地域の皆様との意見交換などを実施し、学校全体に児童生徒や地域の多様な活動が広がり、地域とともに、楽しくわくわくするような学びや体験ができる学校を目指してまいります。

教育環境の整備につきましては、県内初の取組といたしまして、市内全小中学校へ教育に特化した生成ＡＩを導入いたします。

児童生徒の探求的な学習の伴走者として生成ＡＩを活用することで、個別最適な学びが促進されるとともに、生成ＡＩとの対話を通して学びを深めることで、幅広い視野や考え方を養うことにつながります。

また、教職員におきましても、生成ＡＩによるデータ分析や業務の自動化により負担が軽減され、授業の準備や個別指導にあてる時間が増えるなど、これまで以上に質の高い教育を提供することが可能となります。

引き続き、現場と一体となって教育環境の整備に努め、当市の未来を担う人材の育成を図ってまいります。

最後に、物価高騰等による厳しい社会経済情勢の中ではありますが、第３次総合計画における各戦略を着実に進めることが、魅力あるまちづくりにつながるものと考えておりますので、市議会の皆様、市民の皆様にも、更なる御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げ、行政報告とさせていただきます。

令和７年６月２日

牧之原市長 杉本 基久雄